

那珂川町財務状況把握の結果概要

基本的考え方

- 財政融資資金の貸し手として償還確実性を確認する観点から、平成17年度より、地方公共団体の決算統計を利用して作成する行政キャッシュフロー計算書に基づき、ストック面を重視した4つの財務指標を算出し、財務状況把握を実施。
- 平成21年度実施分より、ヒアリングを実施したすべての地方公共団体に対し、財務状況把握の結果を分かりやすく示す「診断表」を交付し、財務の健全化に向けた貸し手としてのアドバイス(情報提供)を実施。

診断表の概要

平成28年度地方財政状況調査表等を基に行政キャッシュフロー計算書を作成し、財務上の問題点を分析した結果の概要は以下のとおり。

1. 現状

○ 債務償還能力について(長期的視点)

①実質債務月収倍率が低いことから償還すべき債務の水準は債務高水準の状況にはないほか、②行政経常収支率が高いことから償還原資の獲得状況において収支低水準の状況にはない。
よって**債務償還能力は留意すべき状況にはない**と考えられる。

財務指標及び財務上の問題点

区分	平成28年度	計画最終年度(平成34年度)	単独基準	複合基準
債務償還可能年数	0.9年	8.4年		15年
実質債務月収倍率	1.9月	5.8月	24月	18月
積立金等月収倍率	12.9月	8.6月	1月	3月
行政経常収支率	16.7%	5.7%	0%	10%
債務系統	○	○		
積立系統	○	○		
収支系統	○	○		

○ 資金繰り状況について(短期的視点)

①行政経常収支率が高いことから経常的な資金繰りにおいて収支低水準の状況にはないほか、②積立金等月収倍率が高いことから資金繰り余力の水準は積立低水準の状況にはない。
よって**資金繰り状況は留意すべき状況にはない**と考えられる。

(平成28年度)

普通会計地方債残高	9,292百万円
うち財政融資資金	3,960百万円

2. 今後の見通し

○ 債務償還能力について(長期的視点)

計画では、①実質債務月収倍率が低いことから償還すべき債務の水準は債務高水準の状況にはないほか、②行政経常収支率がやや低いものの積立金等月収倍率が高いことから、償還原資の獲得状況において収支低水準の状況にはないため、**債務償還能力の今後の見通しについて留意すべき状況にはない**と考えられる。

○ 資金繰り状況について(短期的視点)

計画では、①行政経常収支率がやや低いものの積立金等月収倍率が高いことから、経常的な資金繰りにおいて収支低水準の状況にはないほか、②積立金等月収倍率が高いことから資金繰り余力の水準は積立低水準の状況にはないため、**資金繰り状況の今後の見通しについて留意すべき状況にはない**と考えられる。

3. 総評

貴町は人口減少等に伴う地方税減少の一方、人件費等の歳出や新規地方債発行の抑制のほか、継続的な基金積立など健全な財政運営に努めてきた結果、現時点で貴町の債務償還能力及び資金繰り状況について留意すべき状況にはないと考えられる。また貴町の収支計画に基づく今後の財政見通しにおいても、現時点で留意すべき水準にはないと見込まれるところである。

ただし今後の財政見通しにおける一部留意点として、公共施設及びインフラに係る維持管理・更新費用など収支計画に未反映の経費が複数挙げられるほか、地方交付税縮減に伴う収支状況の悪化が挙げられるところであり、今後の貴町財政を下押しする要因となり得るものと懸念される。貴町においては未反映経費の適時の収支計画への反映や、計画的な財源確保・歳出削減を図ることなどを通して引き続き健全な財政運営に努めることが望まれる。